

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	甲・乙 第 3341 号	氏名	鈴木 絢子
論文審査担当者	主査 千葉 正博 教授 副査 川添 和義 教授 副査 大林 真幸 准教授		
<p>論文題名 : Impact of the multidisciplinary antimicrobial stewardship team intervention focusing on carbapenem de-escalation: A single-centre and interrupted time series analysis.</p> <p>(抗菌薬適正使用支援チームによるカルバペネム系の de-escalation に焦点を当てた活動のアウトカム評価)</p> <p>掲載雑誌名 : International Journal of Clinical Practice Vol. 7 No. 75 e13693 2020 年掲載</p> <p>近年、従来の抗菌薬が効かない薬剤耐性菌が出現とともに、感染症の予防や治療が困難な症例の増加が国際的にも問題となっている。この対策として、抗菌薬の適正使用は重要な課題となる。本論文は、昭和大学藤が丘病院で抗菌薬適正使用支援チーム (AST) の専従薬剤師として、カルバペネム系抗生剤のデ・エスカレーション療法 (DE) の実態を調査した論文である。調査期間中 68.7% の患者で AST の介入により抗菌剤の使用方法の変更が行われた。これにより、狭域抗生剤に変更する率が有意に増え、治療を継続する率は有意に減少した。その結果、カルバペネム系抗生剤の使用量を有意に減少させることが可能となった。また、これらの現状と他施設での結果との比較についても文献を交えながら理路整然と考察していた。最後に AST のマンパワーの問題等の限界に関しても十分に述べられており、今後の研究にも期待が持たれる内容であった。また、本論文は DE の内容を明確化したことに新規性があり独創的で、結果も臨床に直結する内容である。</p> <p>以上のことから、本論文は本学大学院学位論文 (博士) 審査基準満たしており、学位論文に値すると判断した。</p>			

(主査が記載、500 字以内)